

発行所：大阪物療大学
発行者：田中 博司
発行年月：2020年8月
編集：広報委員会
※無断転載を禁じます。



Contents

- P.1 学長挨拶
- P.2 新型コロナウイルス感染症について(時系列)
- P.3 新型コロナウイルス感染症対策
- P.4 4年次生(国家試験対策・卒業研究)
- P.5 3年次生(学内実習)
- P.6 2年次生(理工学実験)
- P.6 1年次生(オンライン授業)
- P.7 施設設備環境

距離をとろうね。

KEEP DISTANCE

学長挨拶

暑い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

学長の田中です。と例年ならのきまり文句ですが・・・

今年は、3月の学位記授与式はなんとか卒業生と教職員のみで学内で
行い、4年間の一番楽しい卒業パーティーが開催できませんでした。

また4月の入学式も会場こそ例年通りの堺のホテルで入学生と最小限
の教職員で行いました。この日を楽しみにお待ちしております。御父兄の参加
も御遠慮頂いて、なんとか行いました。

あれから4・5・6・7月と過ぎ、いまだに本来の対面授業を見合わ
せている状態で、期末試験もオンラインで実施させて頂きました。

なんとかこの暑さでCOVID-19を撃退してもらいたいです。

9月の後期より今まで通りの学園生活を送れることを祈っております。



大阪物療大学 学長
田中 博司

新型コロナウイルス時系列表

1月	6日	中国 武漢で原因不明の肺炎
	14日	WHO 新型コロナウイルスを確認
	16日	日本国内で初めて感染が確認
	30日	WHO 「国際的な緊急事態」を宣言
2月	13日	日本国内で初めて感染者死亡
	2日	安部首相より、小中高校の臨時休校要請
3月	4日	大阪物療大学 学位記授与式 本学アリーナでプログラムを短縮して挙行
	24日	東京五輪・パラリンピック 1年程度延期に
4月	1日	大阪物療大学 入学式 新入生のみ参加し、プログラムを短縮して挙行
	7日	東京・神奈川・埼玉・千葉・大阪・兵庫・福岡に緊急事態宣言
	10日	学生の大学構内への立入の原則禁止と自宅学習を決定
	11日	日本国内の感染者が1日の人数としては最多の700人超
	16日	「緊急事態宣言」全国に拡大 7都府県と北海道・茨城・石川・岐阜・愛知・京都は「特定警戒都道府県」に
	19日	大阪物療大学 第1回オープンキャンパス中止
5月	4日	「緊急事態宣言」5月31日まで延長
	10日	大阪物療大学 第2回オープンキャンパス中止
	11日	オンライン授業が開始される
	14日	「緊急事態宣言」39県で解除 8都道府県は継続
	20日	夏の全国高校野球 戦後初の中止が決定
	21日	関西で「緊急事態宣言」解除 首都圏と北海道は継続
6月	25日	全国で「緊急事態宣言」解除
	7日	大阪物療大学 第3回オープンキャンパス中止
	19日	全国で都道府県をまたぐ移動の自粛要請緩和
	22日	「Go to トラベル」キャンペーンが開始される
7月		

新型コロナウイルス

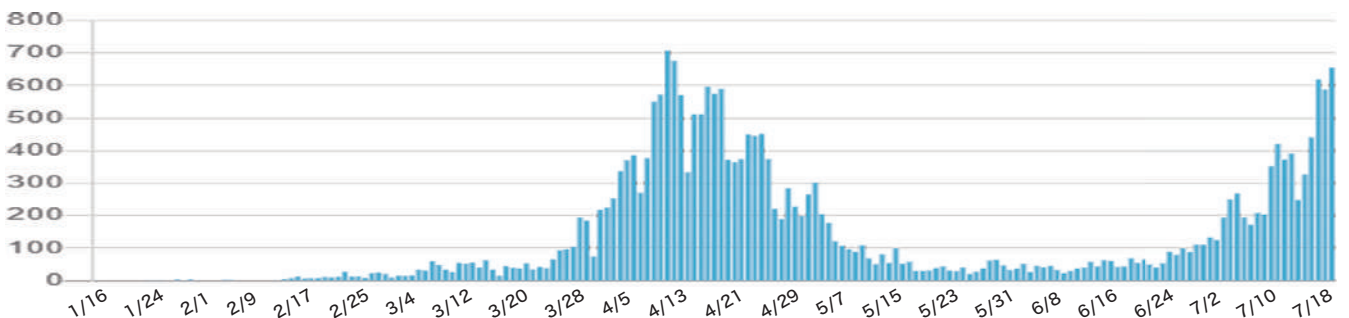
WHO「国際的な緊急事態」を宣言

大阪物療大学 学位記授与式(大阪物療大学 アリーナ)

大阪物療大学 入学式 (アゴラリージェンシー大阪堺)

夏の全国高校野球 中止決定

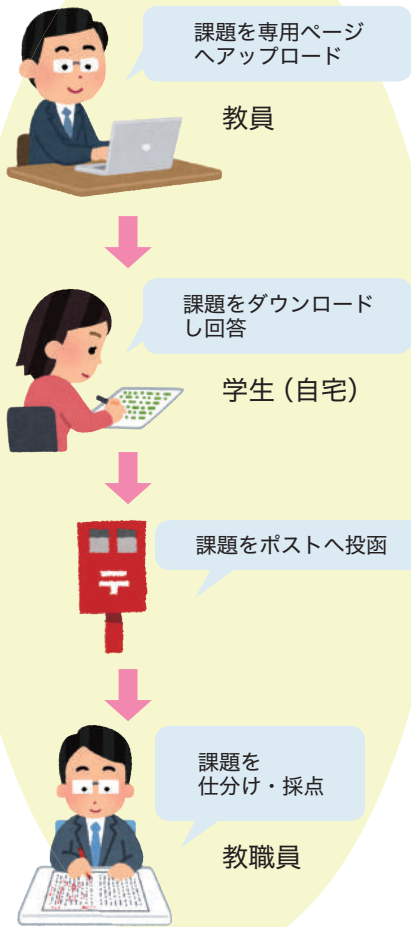
日本国内の感染者数(累計)



(引用元：国内発生状況 <https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>)

新型コロナウイルス全学年への取り組み

【自宅学習の流れ】



新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、対面講義に代わるものとして、課題やオンライン授業等を実施し、授業時数として確保しています。

そのために、オンラインツールを活用できる環境の整備を行う等、この度のコロナ禍においての対策は、今現在だけでなく今後の2、3年先まで見据え、対策を講じていく必要があります。学生の皆さんの健康・安全を考え、検討がなされています。



課題による自宅学習を実施



4月8日より、課題学習がスタートしました。

毎週教員より、課題が学内システムで専用ページにアップロードされます。学生は、その課題を自宅ダウンロードして取り組み、ポストへ投函。

大学へ届いた課題は教職員で手分けをして、仕分け・添削が行われます。



オンライン授業の実施



学生にとって自宅には様々な誘惑がありますので、いかに講義内容に興味を持たせられるかだと考えています。私自身が楽しみながら、語りかけるように講義することを心がけています。

Q3 オンライン授業の良さ

対面授業だとなかなか挙手してくれませんが、チャット機能だと予想以上のコメントが集まり、アクティブラーニングになっていると感じます。学生にとっては、通学時間を有効に使えるというメリットもあると考えます。授業は対面で行うという既成概念を考え直すいい機会になりました。

Q2 気を付けていること・工夫していること

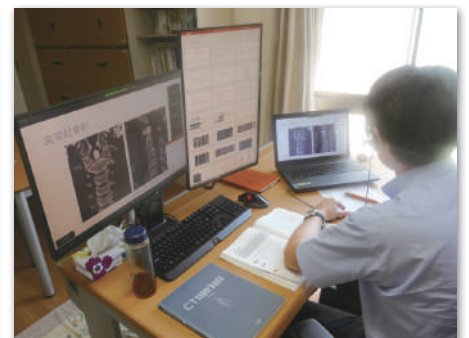
約80人の学生の受講態度を確認することが難しいことです。また、身振り手振りが使えないので、言葉とスライドだけで伝えなければなりません。複雑な内容を講義する場合、一方通行の講義になっていないか、不安を感じることがあります。

教員へ聞きました!

新型コロナウイルスによって世界中が打撃を受けていますが、学びを止める必要はありません。

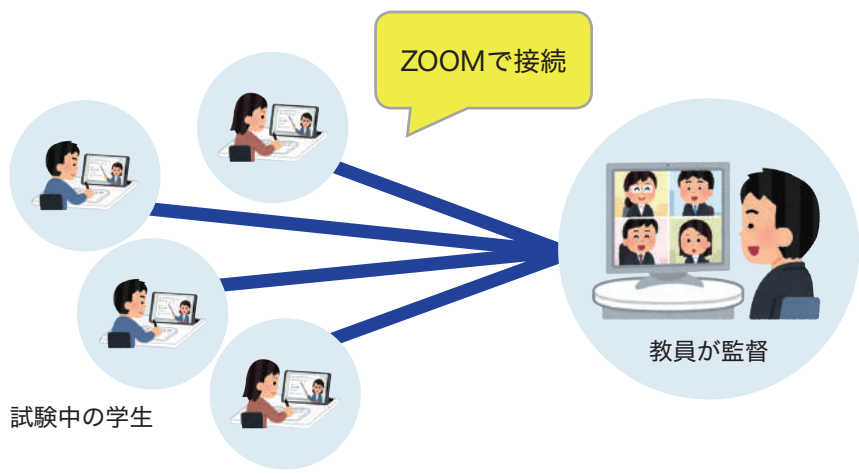
現代医療に必要な不可欠な画像検査に携わる放射線技師を目指してこれからも勉学に励んでください!

教員より



国家試験対策や卒業研究に向けての取り組み(4年次生)

学内模試をオンラインで実施



新型コロナウイルス感染症対策として、4年次生は5月と7月の学内模試をオンラインで実施しました。卒研ゼミごとにZOOMを使用し、教員が試験監督を行いました。

受験生からは「リラックスして受験できた」「通常の試験と同じ感覚で受験できた」などの意見が寄せられました。模擬試験の結果は、卒業研究の教員から所属研究室の学生に個別に配信され、個々の学生の成績、特質に応じて個別指導が行われています。

この様な個別面談もオンライン上でマンツーマンで行われ、自宅で簡単にリラックスして話ができます。今後も国家試験合格に向けて、オンラインツールを有効に活用していきます。

新型コロナウイルスの影響により、国家試験科目に対応した講義をすべてオンライン講義形式で行っています。

かつ、国家試験科目の中でも配点が大きく重要な「基礎医学」、「撮影学」、「治療学」などは、自由参加型のオンライン講義を行うことで得点率向上を目指しています。

さらに、感染対策を十分にしたいうえで、理工学科目を中心とした特別ゼミが、少人数の対面式講義で行われており、コロナ禍の中で様々な国家試験対策が講じられています。



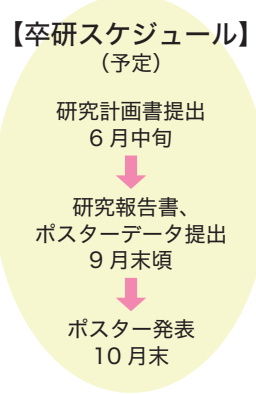
【国家試験 特訓ゼミ】

4年生が皆、オンライン講義や模擬試験で順調に実力を向上させ、来年の国家試験を突破することを祈っています！

担当教員より



卒業研究の進め方



卒業研究内容については、新型コロナウイルス感染症拡大に配慮し、大学にて機器を使用して行う研究から、論文の読込や国家試験問題の分析といった調査・分析を行う内容にシフトする研究室や、必要時のみ大学にて新型コロナウイルス感染症対策を行ういくつかの研究を進める研究室もあります。



臨床実習に向けての取り組み(3年次生)

学内実習を対面で実施



放射線技術学実習
 日進月歩で進化する医学、医療機器のIT化に伴い、診療放射線技師の業務内容はどんどん変化しています。以前のアナログX線写真は今や殆ど目にすることがなく、X線検査や超音波検査は全てデジタル画像になり、最近では身体の中をX線や超音波を用いて撮影した画像がリアルタイムでモニターに映ります。その画像を観察して直ぐ読影し、検査を依頼した医師が正確な診断をするための検査レポートと鍵になる画像を医師に迅速に提供する業務に変わってきています。そのために講義では学習できない検査機器を操作して、身体の中を動画で観察するという学習が必要です。
 本学では2年次生より学内の様々な機器を使ってX線装置を実際に操作したりファントムを撮影し学内実習を行っていました。

学生からは、授業や本で見た画像を撮影して検査レポートを作成をするためには、十分な解剖学、病態学の知識が必要である事を理解出来たという声が多かったです。
 また医療の現場では新型コロナウイルスやインフルエンザは勿論今後も様々なウイルス感染症が発生した中でも感染対策を行いなからX線撮影や超音波検査を行わなければいけません。そのことを鑑みると今回学生、教員ともに大変な思いをしました。が、将来必ず役に立つ学習になったのではないかと考えます。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のために大学全体で4月からの対面講義も止め、オンライン講義に切り替え講義を行っていました。しかし、実習はどうしても機器を操作して学習を行う必要があるため、3密を避け、1回あたりの人数を大幅に減らし、少人数でマスク着用はもちろん、フェイスシールド、グローブを着用し、手洗い、消毒、部屋の換気を十分に行う等の感染防止マニュアルを遵守して教員と学生が対面で実習を行いました。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のために大学全体で4月からの対面講義も止め、オンライン講義に切り替え講義を行っていました。しかし、実習はどうしても機器を操作して学習を行う必要があるため、3密を避け、1回あたりの人数を大幅に減らし、少人数でマスク着用はもちろん、フェイスシールド、グローブを着用し、手洗い、消毒、部屋の換気を十分に行う等の感染防止マニュアルを遵守して教員と学生が対面で実習を行いました。



臨床実習に向けてのスケジュール(予定)

6月下旬
オンライン
ガイダンス実施

7月初旬
学内実習
スタート

8月下旬
学内実習
終了

10月
臨床実習
スタート

学内実習での取り組み(2年次生)

理工学実験を対面で実施



理工学実験

理工学実験Ⅱは2年次生前期の実習科目です。理工学実験Ⅱでは、1年次の後期に受けた理工学実験Ⅰに引き続いて、『医用工学』放射線計測学の各講義で学んだ内容について実験を通してより理解を深める事を目的としています。

『医用工学』分野では共振回路や電磁誘導、AD変換回路に関する実験を、『放射線計測学』ではGM計数管を用いた測定や半価層に関する実験を行っています。

更に、今年度はコロナ禍における感染症対策に最大限考慮して学内実習を実施しています。

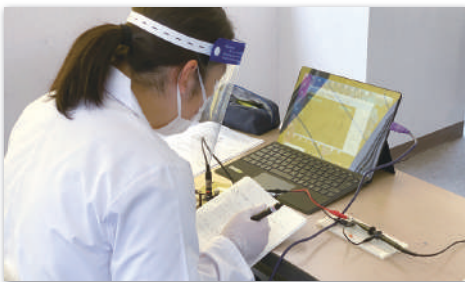
緊急事態宣言の影響もあり、実験開始が7月にずれ込みましたが、7月6日のオンラインでのオリエンテーションを皮切りに、毎週月曜日に実習を行っています。

実習開始に先駆け、学内実習学生用マニュアルを作成し、学生全員に周知しました。また、実習前&実習中健康観察表への記入を義務付け、自分の体調の変化にいち早く気づけるような習慣作りにも力を入れています。これらは偏に、学生自身が医療人を志す医療系大学の学生であるという自覚を持ち、自分自身が罹患しないだけでなく他人に感染させないように努めるためです。

登下校中の感染症対策のために、実験の講義時間を午前11時から午後2時10分という変則的な時間割を採っています。

実験中はソーシャルディスタンスを十分に確保できるような座席位置での受講、マスクに加えてフェイスシールドとゴム手袋の着用等、クラスターを生じさせないための最大限の対策を取り入れています。

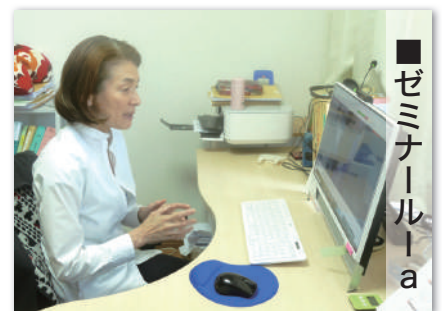
ソーシャルディスタンス確保のために、従来の少人数チームでの実験ではなく、各学生個人用の実験セットを準備したテーマもあります。そのため、従来よりも学生が自分で考え、自分で実験する必要が生じています。これにより、学生自身の学びや習熟度には良い方向の変化が見られたら良いと考えています。今出来る最大限の対策を徹底し、その上で学生が理工学系科目の内容をより理解して後期の放射線技術実習に臨めるように、担当教員一同、全力を尽くします。



オンライン授業での取り組み(1年次生)

オンラインを利用した講義紹介

ゼミナールa



ゼミナールaの授業目的は、自らの職業観、勤労観を培い、社会人として必要な資質能力を養う基盤を形成するための科目です。この目的を達成させるため、入学直後の1泊研修や病院見学や老人介護施設の見学を予定していましたが、今回のコロナ禍で中止となりました。今回は、このような状況下で行った2つの取り組みを紹介いたします。まず1つめは、病院見学体験です。9つの病院に対して、直接の訪問見学という形で実施しました。ネットで見覧した内容を、フレームワークを基にパワーポイントを作成し、ZOOM上で全学生が発表しました。また質疑応答も行い、良い疑似体験が行えました。学生はパワーポイント作成に力を注ぎ、中には非常に完成度の高い作品もあり、対面授業と変わらない出来栄に学生の底力を感じました。2つ目は、現在のコロナ禍で在宅でのオンライン授業しか体験できない1年生たちの不安や悩みを少しでも解消するために、外部講師を招いての授業を実施しました。

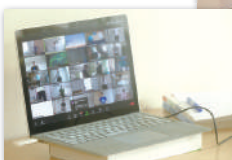
本来は1泊研修の中で行う予定でしたが、コロナ禍で同級生と会えない、コミュニケーションが取れない状況の中で、今の不安は何か、その不安は何かから来ているのか等、ユニークな画像を用いながら講義頂きました。今後の目標を見出しにくい状況下で、学生が今すぐに行える事や、3か月後に到達している自分の姿をどのように描いたのか、など目標設定や感想文が待ち遠しく思えます。



健康科学



オンラインで学生と一緒に体操を実施!



大学施設面での予防対策

各号館に合わせた対策を実施中



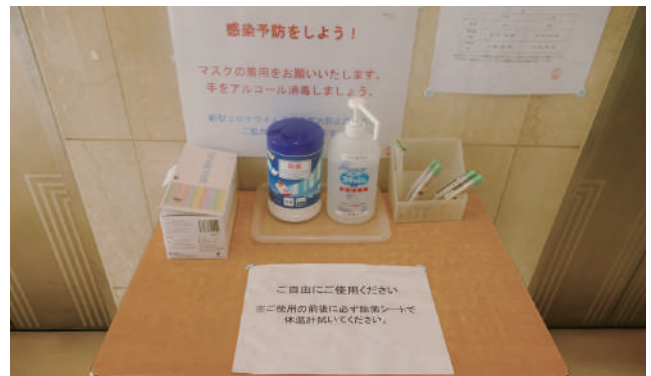
1号館・4号館でサーモグラフィを導入



事務室や図書館カウンターに飛沫防止カーテンを設置



対面での授業開始に向け、間隔を空けた机配置



アルコール、マスク、体温計の設置



ソーシャルディスタンス確保の足元掲示



トイレ内での予防対策



アルコール消毒・検温実施の声かけ



トイレ出入口ドアノブ撤去（接触緩和）